

平成 29 年 3 月 23 日

飯田市議会全員協議会 資料No. 2

# 飯田市版総合戦略

## 【修正版】

平成 29 年 3 月

飯田市 総合政策部 企画課

# 1 飯田市版総合戦略の全体像

## 総合戦略(平成27年度～31年度)

### 4つの柱と基本目標

1 若者が帰ってこられる産業をつくる

・学卒者の地域内回帰・定着率:  
43.9%⇒50%

2 飯田市への新しい人の流れをつくる

・休日滞在人口率:1.44倍⇒1.50倍

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

・合計特殊出生率:1.76⇒1.80

4 環境と経済が好循環する低炭素なまちをつくる

・温室効果ガス削減量:  
35,417t-CO2⇒66,303t-CO2

産業振興と地域振興の「知の拠点」づくり

人口ビジョン  
(2045年)

人口の将来展望

○定住人口 91,000人

○休日滞在人口率 2倍  
(182,000人)

### 総合戦略の方向

リア時代を具据え、地域に活力を生む「知の拠点」の形成と世界に誇れる飯田のライフスタイルの提案

### 施策の展開と重要業績評価指標

1-1 産業振興に寄与する「知の拠点」の形成

・工業技術センター・EMCセンター・利用件数:1,200件  
・共同研究協議会設置者数:10人

1-2 新たな産業分野・地域産業の高付加価値化への挑戦

・農産物新市場開拓事業数:10事業  
・農業種連携による新商品開発数:16件

1-3 地域産業の担い手確保

・高校卒業生の地元就職者数:375人  
・進学者のUターン就職者数:375人  
・新たに新規就農・経営継承継付金を受給する人数:10人

2-1 飯田だから実現できるライフスタイルの提案

・移住した子育て世帯の総人数:35人  
・農ある暮らしを目的とした移住者数:8人

2-2 「結い」のまち「飯田」においてなんしよ

・南アルプスエリアを訪れた観光客数:233,000人  
・体験プログラム年間参加者数:50,000人  
・天龍峡ご案内人が案内した観光客数:6,000人

2-3 企業の地方移転・拠点の機能強化

・新産業団地への立地企業における新たな雇用者:80人

2-4 地域振興に寄与する「知の拠点」の形成

・学輪IDAとの連携によるグローバル人材の育成

2-5 地育力和協働によるグローバル人材の育成

・学校が楽しいと感じている児童生徒の割合:90%  
・学習支援事業に参加している参加者の満足度:70%  
・ふるさとに愛着を感じている高校生の割合:78%

3-1 若者のライフデザインとその実現の支援

・婚姻件数:500件

3-2 信頼と絆で応援、健康な子育てのまちづくり

・子育てしやすいまちだと思える人の割合:88.0%  
・ゆいまっす広場、つとよの広場、未達原保育の利用割合:100%

3-3 子育ての幸せ実感と子どもの教の理想実現支援

・児童クラブ等の定員:970人  
・子育てしやすいまちだと思える人の割合:66.0%

3-4 「飯田版上質な子育て環境」による若い世代の流入促進

・子どもを産みやすい環境のまちだと思える人の割合:40%  
・保育所等の周辺に自然体験のできる環境を創出した数:20箇所  
・親が食農体験、食育活動に関わった園の割合:100%

4-1 地域環境権を行使して活用した飯田型再生エネまちづくり

・地域環境権を行使した市民の割合:80%

4-2 「目指せ!域産域消」おひさまエネギー一括大PJ

・太陽光発電の設置容量:40,130 kw

4-3 「目指せ!域内循環もりのエネギー一促進PJ

・木質バイオマス燃料に活用する材の量:3,300 t

4-4 「少い工夫で幸せいっぱい」地域ぐるみで省エネ大作戦

・省エネ改修等の改善による温室効果ガスの削減量:42,466t-CO2

4-5 「魅力アップ」リア時代へのスマートシティ創出

・スマートシティ等の計画策定件数:3件

### 主な事業・取組

1-1 信州大学と連携した航空機産業分野の人材育成

・公的試験場の役割を担う工業技術センターEMCセンターの技術開発力の強化・知の拠点整備事業

1-2 地域産業等振興事業

・農産物新市場開拓事業・Uターン就職による地元産業の活性化  
・農産物新市場開拓事業・地域産品ブランド化事業  
・農産物新マーケットチャレンジ事業

1-3 地元高校生への進路選択支援と就職する地元高校生向けの社会人育成講座の開催

・大学生、若者に対するUターン就職の支援  
・農業の担い手誘致、新規就農者支援  
・ものづくり高度人材育成事業・いいた森林学校の開講

2-1 「暮らし方・働き方・学び方」の新たな提案、発信による

・若者の交流居住支援・移住者の相談窓口の充実  
・空家バンクの運営・農ある暮らしの提案  
・観光誘客宣伝事業・シェアリング推進事業

2-2 エコパークジョブパークエリア4市町村(飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村)の連携による観光誘客の推進

・天龍峡活性化事業・人形劇のまちづくり推進事業、自然環境と共生する新たな産業用地の整備に企業立地補助制度の拡充

2-3 大学とのネットワーク構築事業

2-4 大学とのネットワーク構築事業

2-5 飯田らしい中連携、一貫教育推進事業・飯田コミュニケーション教育の充実

・飯田教育の充実・高校生等次世代育成事業  
・地域に根差した公民館活動と多世代講座の開催

3-1 ともに未来を支え合うパートナーづくり事業

・妊娠、出産に影響のある疾患等の有無を検査するプログラム  
・イタルチェックの啓発・不妊、不育治療費の助成  
・不妊や不育などの悩みを寄り添った専門的相談事業の推進

3-2 子ども医療費給付事業・親子の成長発達を応援する取組

・事業子育て応援推進事業・子ども家庭応援センター事業・小学校、中学校就学援助等事業

3-3 児童館、児童センター、児童クラブの運営事業

3-4 多子世帯に対する保育料軽減の拡充

・妊娠、出産がホッとできる機会づくり・ノーベル賞につながる?子どもの感性を育むまちづくり・自然保育を基調とした保育の質向上

4-1 新エネルギー推進リーディング事業

・地域環境権による市民の再生可能エネルギー活用

4-2 おひさまのエネルギー利用促進事業

4-3 もりのエネルギー利用促進事業

4-4 飯田の木で家を建てるプロジェクト事業

4-5 新エネルギー推進リーディング事業

## 2 4つの柱

### (1) 若者が帰ってこられる産業をつくる

#### <基本目標>

地域産業の持続的発展に資する研究開発力の強化を図るとともに、新産業の創出、地域産業の高付加価値化への挑戦を支援します。また、地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成に取り組みます。

数値目標	基準値	目標値
学卒者の地域内回帰・定着率	43.9% (平成26年度)	50.0% (平成31年度)

#### <施策の展開と重要業績評価指標>

##### 1-1 産業振興に寄与する「知の拠点」の形成

○地域産業の持続的発展を支援する南信州・飯田産業センターの機能強化、新分野への挑戦を支援する公的試験場としての役割を担う工業技術センター・飯田EMCセンターの機能強化、信州大学共同研究講座の設置と産学官金が連携するコンソーシアムによる運営支援など、産業振興に寄与する知の拠点の形成に、飯田下伊那14市町村が連携して取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
工業技術センター・EMCセンター利用件数	932件 (平成26年度)	1,200件 (平成31年度)
共同研究講座学位取得者数	—	10人 (31年度までの累計)

#### <主な事業や取組>

- ◇信州大学と連携した航空機産業分野の人材育成（信州大学航空機システム共同研究講座の設置と講座運営を支援する産学官金連携によるコンソーシアムの設立）
- ◇公的試験場の役割を担う工業技術センター・EMCセンターの技術開発力の強化
- ◇知の拠点整備事業（実施設計、整備工事）
- ◇地場産業等振興事業（公益財団法人 南信州・飯田産業センターの機能拡充・移転）

## 1-2 新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦

○新産業クラスター\*の形成や世界に発信できるブランド構築など、新たな産業分野の創出、地域産業の高付加価値化への挑戦を積極的に支援します。併せて、三遠南信地域の広域的な連携による戦略的な取組により、地域産業の持続的発展を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
農産物新規市場開拓事業数	—	10事業 (31年度までの累計)
異業種連携による新商品開発数	—	6件 (31年度までの累計)

### <主な事業や取組>

- ◇新産業クラスター形成事業(地域内の新たな産業創出、中核企業の生産体制及び人材育成の支援)
- ◇ツーリズム連携による地域農産物ファン創出事業(いいだファンクラブの運営、産地ツアーの実施)
- ◇地域産品ブランド化事業(市田柿、南信州牛ブランディング)
- ◇農産物新マーケットチャレンジ事業(広域的な連携による農産物の海外販路開拓)

## 1-3 地域産業の担い手確保

- リニア時代を見据え、地域産業の将来を支える担い手確保のため、地域内の高校生に対する進路選択支援の施策を充実させます。
- 飯田女子短期大学、学校法人コア学園飯田コアカレッジ、長野県飯田技術専門校などとの連携による人材育成、就職支援の取組を充実させます。
- 地域産業の将来を支える担い手・起業家を育てるため、地域の産業振興に通ずる事業を構想し、実現することができる人材育成に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
高校卒業生の地元就職者数	362人 (平成26年度)	375人 (平成31年度)
進学者のUターン就職者数	313人 (平成26年度)	375人 (平成31年度)
新たに新規就農・経営継承給付金を受給する人数	—	10人 (31年度までの累計)

### <主な事業や取組>

- ◇地元高校生の進路選択支援と就職する地元高校生向けの社会人育成講座の開催
- ◇大学生、若者に対するUIターン就職の支援
- ◇農業の担い手誘致、新規就農者支援(新規就農者の研修費補助)
- ◇ものづくり高度人材育成事業(研究開発型事業の創出支援)
- ◇にぎわい創出店舗活用事業(空き店舗の活用や創業に対する補助)
- ◇起業家育成支援事業(起業家人材の育成、ビジネスプランコンペティションの開催)
- ◇いいだ森林学校の開講(森林・林業再生の担い手育成)

## (2) 飯田市への新しい人の流れをつくる

### <基本目標>

リニア中央新幹線の開業を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案などにより移住者の増加をめざすとともに、この地域を訪れる人を増やすため、人を惹きつける魅力づくりに取り組みます。

数値目標	基準値	目標値
休日滞在人口率	1.44 倍 (平成 26 年度)	1.50 倍 (平成 31 年度)

### <施策の展開と重要業績評価指標>

#### 2-1 飯田だから実現できるライフスタイルの提案

- リニアのメリットを活かす移住者の増加対策として、子育て世代を主なターゲットに、飯田だから実現できるさまざまなライフスタイルの提案と移住者のニーズに合わせた相談に応じられる総合的な移住施策に取り組みます。
- 豊かな自然環境や食文化の中で、大都市での仕事と飯田市での生活を両立できる半農半X\*や地域活動による住民との交流と協働によって暮らしの質を高めながら仕事をする飯田型のライフスタイルを、多様な主体と連携し提案・発信していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
移住した子育て世帯の総人数	21 人 (24~26 年度平均値)	35 人 (平成 31 年度)
農ある暮らしを目的とした移住者数	—	8 人 (31 年度までの累計)

### <主な事業や取組>

- ◇「暮らし方・働き方・学び方」の新たな提案・発信による若者の交流居住支援
- ◇移住者の相談窓口の充実（子育て世帯の空き家への引越費用補助）
- ◇空き家バンク\*の運営（利用者向け空き家の改修費補助、所有者向け空き家の環境整備費補助、空き家台帳整備）
- ◇農ある暮らしの提案（市民農園、クラインガルテン、ワーキングホリデーの活用）

## 2-2 「結いのまち」飯田においてなんしょ

- リニアの開業を見据え、特に首都圏のこだわりの旅を求める女性層や外国人旅行者、シニア世代をターゲットに、この地域へ観光客を呼び込みます。そのために、地域資源の掘りおこしと磨き上げ、体験プログラムや受入体制の整備、国内外に向けた効果的な情報発信 南信州版DMO\*の機能強化に取り組みます。
- 国際化への対応として、多文化共生社会\*を推進するとともに、人形劇などを通じた小さな世界都市\*の創造に取り組みます。
- 飯田独自の迎賓機能に磨きをかけて、MICE\*機能の強化を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
南アルプスエリアを訪れた観光客数	220,000人 (平成26年度)	233,000人 (平成31年度)
体験プログラム年間参加者数	36,000人 (平成26年度)	50,000人 (平成31年度)
天龍峡ご案内人が案内した観光客数	3,866人 (平成25年度)	6,000人 (平成31年度)

### <主な事業や取組>

- ◇観光誘客宣伝事業 (リニア開業を見据えた首都圏での知名度向上のための情報発信と交流)
- ◇シティプロモーション推進事業 (メディア関係者等へのプロモーション活動)
- ◇エコパーク・ジオパークエリアの4市町村 (飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村) の連携による観光誘客の推進、遠山郷観光戦略プロジェクト事業 (観光マップ、モデルコースづくり)
- ◇体験型観光推進事業 (体験教育旅行)
- ◇天龍峡活性化事業 (天龍峡温泉交流館の改築、天龍峡大橋の整備による新たな魅力づくり)
- ◇人形劇のまちづくり推進事業、人形劇のまち国際化推進事業 (いいだ人形劇フェスタの開催、人形劇の友・友好都市国際協会「AVIAMA」参加、世界人形劇フェスティバル及びAVIAMA飯田総会の開催)

## 2-3 企業の地方移転・拠点の機能強化

- 当地域への本社機能の移転等を計画する事業者への支援や研究開発型企業の誘致を進めて安定した雇用の創出を図るとともに、リニア時代に向けて研究者や高度技術者など新たな人財の流入を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
新産業団地への立地企業における新たな雇用者	— (平成26年度)	80人 (31年度までの累計)

### <主な事業や取組>

- ◇自然環境と共生する新たな産業用地の整備と企業立地補助制度の拡充

## 2-4 地域振興に寄与する「知の拠点」の形成

- 地域と大学・研究者との連携による地域振興に通ずる調査・研究・実践活動のさらなる展

開や、調査・研究成果等の蓄積や発信（アーカイブ）機能を高めるため、それを支える「知の拠点」を形成し、地域づくりのモデルとして飯田の価値を創造し、世界に発信します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
学輪 IIDA*との連携によるプロジェクト数	9件 (平成 26 年度)	13件 (平成 31 年度)

### <主な事業や取組>

◇大学とのネットワーク構築事業（学輪 IIDA の取組促進）

## 2-5 地育力\*と協働によるグローバル人財の育成

- 「知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む」ために、本物体験を通じたふるさと学習やキャリア教育などの地育力を活かし、小中9年間における飯田らしい教育課程を編成するとともに、幼少期から連携できる取組の研究を進めます。
- これまで培ってきた学びの土壌を基盤として、社会教育機関における教育学習機能をさらに充実させ、生涯を通じて学習できる支援体制を整備し、多様な学習意欲に応えていきます。
- 学輪 IIDA のネットワークを生かし、飯田を訪れる大学と地元高校との交流を進める高大連携や地域人教育を促進し、高校生の視野拡大、学習意欲の向上、ふるさと意識の醸成等に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校 83.3% 中学校 80.5% (平成 26 年度)	小学校 90.0% 中学校 90.0% (平成 31 年度)
学習支援事業に参加している参加者の満足度	—	70.0% (平成 31 年度)
ふるさとに愛着を感じている高校生の割合	75.6% (平成 27 年度)	78.0% (平成 31 年度)

### <主な事業や取組>

- ◇飯田らしい小中連携・一貫教育推進事業（~~教育支援指導主事設置、義務教育9年間の系統的な指導計画・学習プログラムの作成、ICTを活用した飯田市の教育課題への対応~~）
- ◇飯田コミュニティスクール推進事業（地域と学校がつながる飯田コミュニティスクールの立ち上げ・推進）
- ◇地育力を活用した各年代に応じたふるさと学習の展開-LG（地域・地球）飯田教育の充実
  - ・~~ふるさと学習推進事業（地域資源と地域人材を活用した「ふるさと学習」の推進）~~
  - ・~~体験活動推進事業（農業体験や生活体験を通じた「ほんもの体験」の推進）~~
  - ・~~キャリア教育推進事業（キャリア教育コーディネーター設置、職場体験）~~
- ◇~~高校生等次世代育成事業（カンボジアスタディツアーの実施、地域人教育の促進）~~
- ◇地域に根差した公民館活動と多彩な講座の開催

### (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### <基本目標>

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとともに、飯田の未来を担う人財を育むことができるよう、地域ぐるみで子育て・子育てを応援する環境づくりを推進します。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.76 (平成 26 年)	1.80 (平成 31 年)

#### <施策の展開と重要業績評価指標>

##### 3-1 若者のライフデザイン\*とその実現の支援

○若者に出産適齢期に係る情報提供をはじめ、自分のライフデザインづくりへの意識を持ってもらえるよう啓発して、結婚に対する意識の醸成を図ります。当事者周辺の人々も含め多様な支援者による結婚の実現へのアプローチを図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
婚姻件数	456 件 (平成 26 年度)	500 件 (平成 31 年度)

#### <主な事業や取組>

- ◇ともに未来を支え合うパートナーづくり事業 (婚活イベント、結婚相談の開催)
- ◇妊娠、出産に影響のある疾患等の有無を検査するブライダルチェックの啓発
- ◇不妊・不育症治療費の助成、**不妊や不育などの悩みに寄り添った専門的相談事業の推進**

##### 3-2 信頼と絆で応援、健康な子育てのまちづくり

○子どもの健康を守り、子育て世代の経済的負担を軽減できる仕組みづくりを推進します。  
○若い世代が安心して子どもを産み育てたくなるよう、飯田市こども家庭応援センターを中心に相談から支援へ地域ぐるみの連携体制を強めて、親子の成長発達をはじめ健康を支える仕組みづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
子育てしやすいまちだと思える人の割合	61.1% (平成 25 年度)	66.0% (平成 31 年度)
ゆいきつず広場・つどいの広場・未満児保育を利用している子どもの割合 (0~2歳代)	78.4% (平成 27 年度推計値)	100% (平成 31 年度)

#### <主な事業や取組>

- ◇子ども医療費給付事業 (給付対象年齢を 18 歳まで拡大) ※市外進学児童等を含む
- ◇親子の成長発達を応援する取組 (イクメン手帳、子育てナビ発行)

- ◇事業者子育て応援推進事業（ワークライフバランス講座の実施）
- ◇こども家庭応援センター事業（市民協働で子育て応援、子育て相談の総合的窓口）
- ◇小学校・中学校就学援助等事業（準要保護者を対象とした学校給食の無料化）

### 3-3 子育ての幸せ実感と子どもの数の理想実現の支援

- 未満児保育、延長保育など、安心して就労できる体制を整備するための研究を進めます。
- 子育てと仕事の両立支援、妊娠や育児を支援する制度等の普及促進を図り、事業者及び市民の理解を深める取組を推進し、子どもを産み育てたいと思えるような社会環境づくりを進めます。
- 子どもを持った親が子育ての幸せを実感し、子どもの数の理想が実現できるよう、子育てサービスの充実に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
児童クラブ等の定員	850人 (平成26年度)	970人 (平成31年度)
子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	61.1% (平成25年度)	66.0% (平成31年度)

#### <主な事業や取組>

- ◇児童館・児童センター・児童クラブの運営事業（開所時間の延長、竜丘児童センターの拡充）
- ◇多子世帯に対する保育料軽減の拡充（第3子50%、第4子70%、第5子以降100%軽減）

### 3-4 “飯田版！上質な子育て環境”による若い世代の流入促進

- 妊産婦さんにとって喜びの一方、つわり、出産、産後昼夜問わずの授乳など身体的、精神的に大変な時期にホッとできる機会をつくって支援します。
- 子どもや親が自然体験、食農体験など“いのち”とのふれあいを持つことができる環境づくりを地域ぐるみで進め、飯田で子育てしたくなるような魅力をつくっていきます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
子どもを産みやすい環境のまちだと思ふ人の割合	32.8% (平成25年度)	40.0% (平成31年度)
保育所等の周辺に自然体験のできる環境を創出した数	0箇所 (平成26年度)	20箇所 (平成31年度)
親が食農体験、食育活動に関わった割合	65.0% (平成27年度)	100% (平成31年度)

#### <主な事業や取組>

- ◇妊産婦さんがホッとできる機会づくり（助産師による授乳・育児相談の費用助成）
- ◇“ノーベル賞につながる！？”こどもの感性を育むまちづくり（子どもの五感を育てる環境の整備）
- ◇自然保育を基調とした保育の質向上（公立保育園全園での「信州やまほいく」認定の取得から、地域密着型の飯田版自然保育の研究へ）

## (4) 環境と経済が好循環する低炭素なまちをつくる

### <基本目標>

当市独自の「地域環境権条例\*」など、これまで先駆的に実施してきた市民協働による「エネルギー自治」の取組をさらに進め、環境と経済が好循環する低炭素なまちづくりを実現し、国内のみでなく世界にも誇れる環境モデル都市\*をめざします。

※2005(平成17)基準年比

数値目標	基準値	目標値
温室効果ガス削減量	35,417 t-CO2 (平成26年度)	66,303 t-CO2 (平成31年度)

### <施策の展開と重要業績評価指標>

#### 4-1 地域環境権条例を活用した飯田型再エネまちづくり

○当市独自の「地域環境権条例」に基づき、小中学校等の公共施設を活用した太陽光発電事業や、地域資源を活用した小水力発電事業等を支援し、再生可能エネルギー\*によるコミュニティビジネス\*の創出を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
地域環境権を行使した市民の割合	10% (平成26年度)	80% (平成31年度)

### <主な事業や取組>

◇新エネルギー推進リーディング事業（上村小沢川小水力発電事業化の支援）

◇地域環境権による市民の再生可能エネルギーの活用

#### 4-2 “目指せ！域産域消” おひさまエネルギー拡大プロジェクト

○電力の域産域消による経済の好循環に向け再エネ率の高い新電力会社の創設支援を行います。また、太陽光発電を設置可能な屋根や土地に関する情報交換の支援の検討、太陽光発電設備で発電した電気を夜間利用できる蓄電池設置に対する支援を**実施検討**します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
太陽光発電の設置容量	33,600kw (平成26年度)	40,130kw (平成31年度)

### <主な事業や取組>

◇おひさまのエネルギー利用促進事業（太陽光発電システム、太陽熱温水器の設置費補助）

#### 4-3 “目指せ！域内循環” もりのエネルギー促進プロジェクト

○木質バイオマスエネルギー\*の需要増加、通年利用化を促進するため、木質ペレットストーブ等燃料機器の導入の加速化やボイラーの導入増加を図るとともに、木質バイオマスによる熱供給サービスや発電事業について地域内の林業家や関係団体、企業等と連携、研究し、その構築を支援します。また、地域産材を原料とする木質ペレット製造を促進するための支援を行うことで、木質バイオマス資源地域内循環利用の供給側の基盤を強化します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
木質バイオマス燃料に活用する材の量	1,300 t (平成 26 年度)	3,300 t (平成 31 年度)

#### ＜主な事業や取組＞

- ◇もりのエネルギー利用推進事業（ペレットストーブ等の導入費補助）
- ◇飯田の木で家を建てるプロジェクト事業 ~~（木の駅プロジェクトの研究）~~

### 4-4 “少しの工夫で幸せいっぱい” 地域ぐるみで省エネ大作戦

○民生部門と産業部門を中心にした省エネ化の促進として、民生部門では、省エネ化のための住宅改修・新築の気候風土にあった建築仕様の構築と流通の仕組みづくりの検討、~~家庭無料エコ診断実施の支援~~を行います。産業部門では中小規模事業者への省エネ支援のためのプラットホームづくり、省エネ設備導入に対する支援を行います。また、~~家庭部門における省エネの実態把握と推進方法の研究~~を行います。

※2005（平成 17）基準年比

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
省エネ改修等の改善による温室効果ガスの削減量	17,122 t -CO2 (平成 26 年度)	42,466 t -CO2 (平成 31 年度)

#### ＜主な事業や取組＞

- ◇省エネルギー推進事業（エコ住宅改修補助の研究）

### 4-5 “魅力アップ” リニア時代へのスマートシティ\*創出

○中心市街地において環境に配慮した低炭素な都市基盤づくりを進めるとともに、小規模な共同熱利用の検討、可能性調査を実施します。また、リニア中央新幹線の開発に伴う駅施設（市活用部分）を含めた駅前広場及び周辺街区での自然エネルギーを活用した低炭素空間の創出に向け、エネルギーシステムとエネルギーマネジメントの一体的な整備検討や必要な調査を行います。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
スマートシティ等の計画策定件数	0 件 (平成 26 年度)	3 件 (平成 31 年度)

#### ＜主な事業や取組＞

- ◇新エネルギー推進リーディング事業（リニア駅周辺エネルギー自立化可能性調査）
- ◇リニア駅周辺整備検討会議環境・景観部会の立ち上げと連携して研究を進める。

### 3 4つの柱の実効性を高める取組

## 産業振興と地域振興の「知の拠点」づくり

この取組は、南信州広域連合が実施します。

#### 1 基本的な考え方

リニア中央新幹線長野県駅に近接する旧飯田工業高等学校を利活用し、南信州広域連合の第4次広域計画に掲げるリニア時代を見据えた将来像の実現や、国土のグランドデザイン2050に掲げる「ナレッジ・リンク」の一翼を担うとともに、リニアバレー構想の実現に資する産業振興と地域振興に寄与する学術研究の「知の拠点」を整備します。

#### 2 整備の概要

- 「知の拠点」には、産業振興と地域振興に寄与する様々な「知」を集積できる機能を整備することにより、多様な主体（市民・研究者・企業・団体等）が集い、交流し、協働して教育・研究・創造などのさまざまな取組が実践・展開され、知識・経験・情報が集積、発信される拠点として活用します。
- また、活力ある地域経済の実現に向けて、「人的ネットワーク」をベースにした研究開発の拠点として、高等教育機関や試験・研究機関など新たな価値を創り出す機能を集積するとともに、企業・大学・研究機関・金融機関・行政などの多様なプレーヤーが相互に関与し、地域にダイナミズムを創発できる拠点づくりを進めます。
- 「知の拠点」に地域産業の中核的な支援機関である南信州・飯田産業センター、工業技術センター、飯田EMCセンターと学術研究の核となる信州大学航空機システム共同研究講座を集積することで、航空機システムという新たな分野の拠点を創り出し、地域産業における研究開発の動きを活発化し、産業の高度化、高付加価値化を実現します。
- ~~○また地域づくりの「知」の集積、創造・発信拠点機能を整備することにより、地域の独自性や強みを磨きつつ新たな価値を創発し、ブランド力が高まることで南信州地域が世界からその価値が認められ、多くの人財が共鳴して集まる地域となり、小さな世界都市や多機能高付加価値都市圏\*の形成に寄与します。~~

#### ■整備方針1 「知の拠点」の機能を高める。

- ①大学などの教育研究機能の活用
  - 信州大学航空機システム共同研究講座の開設
  - 大学サテライトの設置
- ②大学研究者のネットワークの拠点づくり
  - 大学研究者等の研究室の設置
- ③世界に通ずるグローバルな高等教育機関の設置
  - デザイン系大学院大学の設置
  - 信州大学南信州キャンパス(信州大学航空機システム研究センター)の設置

■整備方針2 産業振興の知の拠点 ―知の拠点を核として産業振興の進化を目指す―

南信州・飯田産業センターの機能拡充・移転

①企業の研究開発を支援する試験・検査施設の拡充

○工業技術センター・飯田 EMC センターの機能拡充

②大学との連携による研究開発機能の強化

③インキュベート機能の強化

○新たな事業の創造、創業を支援するセンターの設置

④ものづくり人財の育成拠点整備

■~~整備方針3 地域振興の知の拠点 ―地域振興の知の拠点として、南信州地域の価値を探求・発信し、新たな知を呼び込み知が地域と結びつくことで南信州地域の価値を高める―~~

~~①南信州の地域づくりに関する「知」を集積・創造・発信する拠点~~

~~○南信州の地域づくりや大学研究者の研究成果等のアーカイブ機能の設置~~

~~②南信州の歴史・文化・風土など、地域の価値を探究する学術研究の拠点~~

~~○歴史研究所の移転~~